

大学院総合国際学研究科 博士前期課程

キャリアプログラム案内 2024

将来の職業を念頭に、ぜひ、チャレンジください。
履修の条件などは、初回の授業にて説明します。

①多文化社会コーディネーター養成プログラム

多言語・多文化する社会の現場で活用する

②CEFR に準拠した新しい外国語教育プログラム

ヨーロッパ言語共通参照枠に基づく教授・学習・評価を身につける

③世界史教育プログラム

歴史教育に関連する仕事をめざす

④国際開発プログラム

国際開発・国際協力に関連する仕事をめざす

※一部のプログラムは改編を予定しているため、2025 年度以降は変更となる可能性があります。



多文化社会コーディネーター養成プログラム

1. プログラムのねらい

多言語化／多文化化する日本社会の現状を多角的に学び、多言語／多文化社会におけるコーディネーションに必要な知識を身につけるためのプログラムです。多言語・多文化する日本では、教育、行政、地域社会などの各領域で、文化や価値観の異なる人々との共存にむけてコーディネーションが行える人材が求められています。本プログラムは、本学大学院において専門分野の研究にあたる皆さんに、プラスαの多文化コーディネーション力を身につける機会を提供するものです。

2. プログラムの特色

- ① 春学期・秋学期：多文化社会におけるコーディネーションの事例研究やワークショップなどを通じて、多文化社会コーディネーションのスキルと基礎的知識を学びます。
- ② 冬学期の集中講義：多文化社会コーディネーションの実践とキャリア形成について学びます。
- ③ 受講生それぞれの言語や地域に関する専門知識を生かすことのできるプログラムです。
- ④ 現場の第一線で活躍している方々と接点を持てるプログラムです。

3. 受講対象者

全専攻の大学院生を対象とします。

4. 受講方法

下記5に挙げる3科目を履修し、6単位を取得します。

5. 科目内容

春学期	水1	こじまよし 小島 祥 美	多文化社会コーディネーション研究1 (553001)	授業題目：多言語多文化マネジメント 授業概要：日本での多言語多文化共生を推進していくためには、様々な機関や団体が連携しながら、方針を立て、効率的に組織を運営し、施策ないしは活動を行っていく必要があります。本授業では、国際比較の観点を織り込みながら、日本政府の政策、関係省庁・都道府県・市町村の取組みを概観します。そして、主として教育現場の実情と課題について、外国につながる児童生徒のいる現場に視座をおいた理解を深め、いくことをめざします。教育領域以外の諸側面における多言語多文化共生についても、受講生個別の関心に
-----	----	--------------------	----------------------------	---

				基づき、探求を試みていきます。
秋学期	木3	萩尾 生 はぎお しょう	多文化社会コーディネーション研究2 (553002)	授業題目：多言語社会としての日本 授業概要：受講生は、多言語社会を理解するための言語社会的なアプローチのさまざまな視座を学びます。受講生には、これらの視座を援用しながら、今日の日本社会における多言語性について、自らの問題意識に基づき課題を設定し、資料の収集や聴取を行い、得られた知見を教室で口頭発表することが求められます。発表に対しては受講生全員で討議し、討議内容を省察したうえで、最終的には、期末にグループ口頭発表としてまとめることとなります。
冬学期	集中	萩尾 生 小島 祥 美 はぎお しょう こじま よし み	多文化社会コーディネーション研究2 (553004)	授業題目：多文化社会コーディネーション実践演習 授業概要：さまざまな分野の現場で活躍されるゲストスピーカーから、多文化コーディネーションの実践をうかがい、討論を通して理解を深めます。最終日には受講生によるプレゼンテーションを実施し評価をおこないます。いずれも、出席者全員の参加によるワークショップ形式を重視することで、コーディネーション力の養成を目指しています。なお、この授業の一部は一般公開されます。

◆ 連絡先：萩尾 生 先生 (shohagio@tufs.ac.jp)

CEFR に準拠した新しい外国語教育プログラム

1. プログラムのねらい

- ・ 現在、世界の外国語教育は欧州評議会が正式に EU 共通で使用が決められているヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: 通称 CEFR）に基づいた教授・学習・評価が中心になってきており、本学でもすべての外国語を CEFR 準拠の枠組みで統一的に指導評価するというプログラムを開発中です。
- ・ この CEFR 準拠の外国語教育の理念や方法を理解していただき、各言語での CEFR 利用環境を整えることは、将来外国語を専門的に教えたい人、外国語を活かして仕事をしたい人に有益なキャリア知識・技能を提供し、将来外国語教師、外国語学校経営、外国語教材出版、外国語テスト開発などのプロとして働く際の必要な素養の 1 つとなります。

2. プログラムの特色

- ① 春学期：CEFR の基礎理念や英語を例とした具体的な枠組み作りの手法を学びます。
- ② 秋学期：各言語の CEFR 準拠の言語教材資料の構築方法の実際を学びます。
- ③ オンデマンドによる自習教材と授業での講義・演習タスク・ディスカッションなどを組み合わせて、実用的な CEFR の活用スキルも学びます。

3. 受講対象者

- ☐ 全専攻の大学院生を対象とします。

4. 受講方法

- ☐ 下記 5 に挙げる 2 科目を履修し、4 単位を取得します。

5. 科目内容

春学期	水 1	とうの ゆきお 投 野 由 紀 夫	- 言語教育基礎 1 (553101)	授業概要： CEFR の基礎理念、英語を例とした具体的な枠組み作りの手法等を学びます
秋学期	水 1	とうの ゆきお 投 野 由 紀 夫	- 言語教育基礎 2 (553102)	授業概要： 各言語の CEFR 準拠の言語教材資料の構築方法の実際を学びます

◆ 連絡先：とうの ゆきお 先生 (y.tono@tufs.ac.jp)

世界史教育プログラム

1. プログラムのねらい

・中学校・高等学校の地歴科教員、および歴史教育に関連する企業・機関を将来の就職先の1つと考える学生を対象としたプログラムです。「世界史教育1」では、現場で活躍する高等学校の教員を対象にした世界史セミナーに参加し、実践的な知識や方法を修得します。「世界史教育2」では、歴史学の方法論の基礎と史料の読み方について、実践的な観点から教育します。

2. プログラムの特色

- ① 世界史教員のリカレントを目的に開講する「世界史セミナー」に参加する。
- ② セミナーに参加することにより、教育の最前線にいる教員と交流できる。
- ③ 高等学校での世界史教育の現状と問題点を把握し、歴史総合科目について理解する。
- ④ 各自の専攻地域を越えた歴史理解と史料読解の場を提供する。

3. 受講対象者

・歴史学を研究分野とする学生を中心としますが、それに限定することなく、隣接する人文科学・社会科学の分野を研究する学生を対象とします。

4. 受講方法

・下記5の2科目を履修し4単位を修得すること。

5. 科目内容

・世界史教育1・2の2科目の内容概要は以下の通りです。

世界史教育1

- ・倉田 明子^{くらた あきこ} 先生 553401（夏学期集中）
世界史教育の現状に関する認識の共有。
世界史セミナーで世界史の最前線に関する諸報告を聴いてレポート。
現場教員からアクティブ・ラーニングの実践について学ぶ。

世界史教育2

- ・松岡 昌和^{まつおか まさかず} 先生 553402（秋学期・木2）
地歴科の教育におけるいくつかのテーマを設定し、それにより世界史の記述を再考し、歴史教育における新たな問いを発見していく。
世界史概念の理解。世界史教育での課題の立て方について学ぶ。

◆ 連絡先：倉田 明子^{くらた あきこ} 先生（akurata@tufs.ac.jp）

【新設】国際開発プログラム

1. プログラムのねらい

「持続可能な開発目標」(SDGs)は、17 のゴールと 169 のターゲットを設定しています。今日、「開発」が関係する課題は途上国に限られるものではありません。その開発目標は多くの学生の研究テーマとも、そして修了後のキャリアにも何らかの形でかかわっているはずです。そうした国際的な視野で見た「開発」の課題についての知識と方法を修得することが目的です。

2. プログラムの特色

SDGs をはじめとする今日の「開発」をめぐる理論と現状を、地域の枠を超えて広い視野で考える機会となります。

3. 受講対象者

社会科学の研究分野、開発途上国を研究対象とする学生に限定せず、修了後に国際開発・国際協力に関係する業務に携わる研究機関・政府機関・NGO・企業などで働くことをめざす学生を対象とします。

4. 受講方法

下記 5 の必修科目を履修し、選択科目から 1 科目を選択履修し、合計 4 単位を修得する。

5. 科目内容

<必修科目>

「国際開発論概説(553601)」戸田隆夫(夏学期・集中講義)

これまでの国際開発・国際協力の理論と実践を概説し、SDGs の諸課題実践の現状と問題点を明らかにします。さらに、ポスト SDGs に求められる課題を国際協力・社会貢献の現場に即して論じます。

<選択科目>

「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18(510262)」武内進一 秋学期・火4限

「国際関係研究4(512302)」出町一恵 秋学期・木6限

「ヨーロッパ・アメリカ地域研究 16(510022)」舛方周一郎 秋学期・水2限

「国際関係研究4(512292)」田島陽一 秋学期・水2限

国際開発・国際協力をめぐる具体的な課題・問題に焦点を当て、諸地域の現状を詳細に明らかにするとともに、研究・実践を深めるための理論とアプローチの方法を修得します。

◆ 連絡先:^{たけうち しんいち}武内 進一 先生 (shinichi_takeuchi@tufts.ac.jp)

大学院総合国際学研究科 博士前期課程

キャリアプログラム案内 2025

将来の職業を念頭に、ぜひ、チャレンジください。
履修の条件などは、初回の授業にて説明します。

①多文化社会コーディネーター養成プログラム

多言語・多文化する社会の現場で活用する

②CEFR に準拠した新しい外国語教育プログラム

ヨーロッパ言語共通参照枠に基づく教授・学習・評価を身につける

③世界史教育プログラム

歴史教育に関連する仕事をめざす

④国際開発プログラム

国際開発・国際協力に関連する仕事をめざす

※一部のプログラムは改編を予定しているため、2026 年度以降は変更となる可能性があります。



多文化社会コーディネーター養成プログラム

1. プログラムのねらい

多言語化／多文化化する日本社会の現状を多角的に学び、多言語／多文化社会におけるコーディネーションに必要な知識を身につけるためのプログラムです。多言語・多文化する日本では、教育、行政、地域社会などの各領域で、文化や価値観の異なる人々との共存にむけてコーディネーションが行える人材が求められています。本プログラムは、本学大学院において専門分野の研究にあたる皆さんに、プラスαの多文化社会コーディネーション力を身につける機会を提供するものです。

2. プログラムの特色

- ① 春学期・秋学期：多文化社会におけるコーディネーションの事例研究やワークショップなどを通じて、多文化社会コーディネーションのスキルと基礎的知識を学びます。
- ② 冬学期の集中講義：多文化社会コーディネーションの実践とキャリア形成について学びます。
- ③ 受講生それぞれの言語や地域に関する専門知識を生かすことのできるプログラムです。
- ④ 現場の第一線で活躍している方々と接点を持てるプログラムです。

3. 受講対象者

全専攻の大学院生を対象とします。

4. 受講方法

下記5に挙げる3科目を履修し、6単位を取得します。

5. 科目内容

春学期	水1	こじまよし 小島 祥 美	多文化社会コーディネーション研究1 (553001)	授業題目：多言語多文化マネジメント 授業概要：日本での多言語多文化共生を推進していくためには、様々な機関や団体が連携しながら、方針を立て、効率的に組織を運営し、施策ないしは活動を行っていく必要があります。本授業では、国際比較の観点を織り込みながら、日本政府の政策、関係省庁・都道府県・市町村の取組みを概観します。そして、主として教育現場の実情と課題について、外国につながる児童生徒のいる現場に視座をおいた理解を深め、いくことをめざします。教育領域以外の諸側面における多言語多文化共生についても、受講生個別の関心に
-----	----	--------------------	----------------------------	---

				基づき、探求を試みていきます。
秋学期	木3	萩尾 生 はぎお しょう	多文化社会コーディネーション研究2 (553002)	授業題目：多言語社会としての日本 授業概要：受講生は、多言語社会を理解するための言語社会的なアプローチのさまざまな視座を学びます。受講生には、これらの視座を援用しながら、今日の日本社会における多言語性について、自らの問題意識に基づき課題を設定し、資料の収集や聴取を行い、得られた知見を教室で口頭発表することが求められます。発表に対しては受講生全員で討議し、討議内容を省察したうえで、最終的には、期末にグループ口頭発表としてまとめることとなります。
冬学期	集中	萩尾 生 小島 祥 美 はぎお しょう こじま よし み	多文化社会コーディネーション研究2 (553004)	授業題目：多文化社会コーディネーション実践演習 授業概要：さまざまな分野の現場で活躍されるゲストスピーカーから、多文化コーディネーションの実践をうかがい、討論を通して理解を深めます。最終日には受講生によるプレゼンテーションを実施し評価をおこないます。いずれも、出席者全員の参加によるワークショップ形式を重視することで、コーディネーション力の養成を目指しています。なお、この授業の一部は一般公開されます。

◆ 連絡先：萩尾 生 先生 (shohagio@tufs.ac.jp)

CEFR に準拠した新しい外国語教育プログラム

1. プログラムのねらい

- ・ 現在、世界の外国語教育は欧州評議会が正式に EU 共通で使用が決められているヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: 通称 CEFR）に基づいた教授・学習・評価が中心になってきており、本学でもすべての外国語を CEFR 準拠の枠組みで統一的に指導評価するというプログラムを開発中です。
- ・ この CEFR 準拠の外国語教育の理念や方法を理解していただき、各言語での CEFR 利用環境を整えることは、将来外国語を専門的に教えたい人、外国語を活かして仕事をしたい人に有益なキャリア知識・技能を提供し、将来外国語教師、外国語学校経営、外国語教材出版、外国語テスト開発などのプロとして働く際の必要な素養の 1 つとなります。

2. プログラムの特色

- ① 春学期：CEFR の基礎理念や英語を例とした具体的な枠組み作りの手法を学びます。
- ② 秋学期：各言語の CEFR 準拠の言語教材資料の構築方法の実際を学びます。
- ③ オンデマンドによる自習教材と授業での講義・演習タスク・ディスカッションなどを組み合わせて、実用的な CEFR の活用スキルも学びます。

3. 受講対象者

- ☐ 全専攻の大学院生を対象とします。

4. 受講方法

- ☐ 下記 5 に挙げる 2 科目を履修し、4 単位を取得します。

5. 科目内容

春学期	水 1	とうの ゆきお 投 野 由 紀 夫	- 言語教育基礎 1 (553101)	授業概要： CEFR の基礎理念、英語を例とした具体的な枠組み作りの手法等を学びます
秋学期	水 1	とうの ゆきお 投 野 由 紀 夫	- 言語教育基礎 2 (553102)	授業概要： 各言語の CEFR 準拠の言語教材資料の構築方法の実際を学びます

◆ 連絡先：とうの ゆきお 先生 (y.tono@tufs.ac.jp)

世界史教育プログラム

1. プログラムのねらい

・中学校・高等学校の地歴科教員、および歴史教育に関連する企業・機関を将来の就職先の1つと考える学生を対象としたプログラムです。「世界史教育1」では、現場で活躍する高等学校の教員を対象にした世界史セミナーに参加し、実践的な知識や方法を修得します。「世界史教育2」では、歴史学の方法論の基礎と史料の読み方について、実践的な観点から教育します。

2. プログラムの特色

- ① 世界史教員のリカレントを目的に開講する「世界史セミナー」に参加する。
- ② セミナーに参加することにより、教育の最前線にいる教員と交流できる。
- ③ 高等学校での世界史教育の現状と問題点を把握し、歴史総合科目について理解する。
- ④ 各自の専攻地域を越えた歴史理解と史料読解の場を提供する。

3. 受講対象者

・歴史学を研究分野とする学生を中心としますが、それに限定することなく、隣接する人文科学・社会科学の分野を研究する学生を対象とします。

4. 受講方法

・下記5の2科目を履修し4単位を修得すること。

5. 科目内容

・世界史教育1・2の2科目の内容概要は以下の通りです。

世界史教育1

- ・篠原 塚^{しのはら たく}先生 553401（夏学期集中）
世界史教育の現状に関する認識の共有。
世界史セミナーで世界史の最前線に関する諸報告を聴いてレポート。
現場教員からアクティブ・ラーニングの実践について学ぶ。

世界史教育2

- ・松岡 昌和^{まつおかまさかず}先生 553402（秋学期・木2）
地歴科の教育におけるいくつかのテーマを設定し、それにより世界史の記述を再考し、歴史教育における新たな問いを発見していく。
世界史概念の理解。世界史教育での課題の立て方について学ぶ。

◆ 連絡先：篠原 塚^{しのはら たく}先生 (takus@tufs.ac.jp)

国際開発プログラム

1. プログラムのねらい

「持続可能な開発目標」(SDGs)は、17 のゴールと 169 のターゲットを設定しています。今日、「開発」が関係する課題は途上国に限られるものではありません。その開発目標は多くの学生の研究テーマとも、そして修了後のキャリアにも何らかの形でかかわっているはずです。そうした国際的な視野で見た「開発」の課題についての知識と方法を修得することが目的です。

2. プログラムの特色

SDGs をはじめとする今日の「開発」をめぐる理論と現状を、地域の枠を超えて広い視野で考える機会となります。

3. 受講対象者

社会科学の研究分野、開発途上国を研究対象とする学生に限定せず、修了後に国際開発・国際協力に関係する業務に携わる研究機関・政府機関・NGO・企業などで働くことをめざす学生を対象とします。

4. 受講方法

下記 5 の必修科目を履修し、選択科目から 1 科目を選択履修し、合計 4 単位を修得する。

5. 科目内容

<必修科目>

「国際開発論概説(553601)」戸田隆夫(夏学期・集中講義)

これまでの国際開発・国際協力の理論と実践を概説し、SDGs の諸課題実践の現状と問題点を明らかにします。さらに、ポスト SDGs に求められる課題を国際協力・社会貢献の現場に即して論じます。

<選択科目>

「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18(510262)」武内進一 秋学期・火4限

「アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18(510272)」佐藤千鶴子 秋学期・木3限

「現代世界論研究4(512052)」中山智香子 秋学期・木 3 限

「国際関係研究4(512302)」出町一恵 秋学期・**火3限**

国際開発・国際協力をめぐる具体的な課題・問題に焦点を当て、諸地域の現状を詳細に明らかにするとともに、研究・実践を深めるための理論とアプローチの方法を修得します。

◆ 連絡先:^{たけうち しんいち}武内 進一 先生 (shinichi_takeuchi@tufs.ac.jp)